

令和 4 年 6 月 26 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00298

研究課題名(和文) 芥川龍之介の直筆資料所蔵に関する調査と分析、総合データベースの構築及び活用の研究

研究課題名(英文) Study and analysis of the collection of Akutagawa Ryunosuke's autographs and research on the construction and utilization of a comprehensive Database

研究代表者

庄司 達也 (SHOJI, Tatsuya)

横浜市立大学・国際教養学部(教養学系)・教授

研究者番号：60275998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究課題が対象とする芥川龍之介には直筆資料が多く残されており、それらは複数の公的機関を中心に国内外に広く所蔵されている。その全体像を把握し、調査、収集した情報をデータベースとして構築することの初期作業を終えた。データベースは、基本情報をほぼ入力し終え、今後展開される個別の情報精査と分析、所蔵機関(者)との連携により進める共同作業のための準備作業を終えている。福島県郡山市との協働により、同市が所蔵する「久米正雄旧蔵映画フィルム」の修復事業を行い、復元した映像を広く公開した。また、同館所蔵の芥川龍之介直筆資料の調査と分析を行い、不明であった資料の内容を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内外の各地の文学館、資料館、博物館、自治体などを中心に、個人コレクターも含めた多くの所蔵者(機関)を有する芥川龍之介直筆資料の所蔵状況を明らかにし、その有効な活用方法を検討することは、芥川研究にとどまらない近代文学研究に於ける研究基盤を整えることを目論むという意味合いに於いて、本研究課題が果たす役割は大変に意義あるものである。また、資料調査に関連して行った、福島県郡山市が所蔵する「久米正雄旧蔵映像資料」の修復作業の成果については、大正期における貴重な映像資料の発掘に繋がり、文学研究にとどまらぬ、文化史、地域史、郷土研究の領域においても有益な事業となったと云える。

研究成果の概要(英文)：In the research field about Akutagawa Ryunosuke, an important place is occupied by the many author's autographs now in the collections of several public institutions in Japan and around the world. Having grasped an overall picture of the material we completed the initial task of creating a database including all the information surveyed from the autographs. Concerning the database, almost all the essential data have been entered and we concluded the preliminary work finalized to carefully examine each data and to carry forward a joint effort with the institutions and individuals holding the autographs. Further, the restoration project of a cinematographic film formerly owned by Kume Masao has been conducted through the cooperation of Koriyama City in Fukushima Prefecture, where it was preserved, and the reconstructed footage has been released. While analysing Akutagawa's autographs in the collection of the same archive we clarified unknown details in some of the author's manuscripts.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：芥川龍之介 近代文学 直筆資料 書簡 原稿 日本 映像 久米正雄

1. 研究開始当初の背景

芥川龍之介の直筆資料は、日本近代文学館、山梨県立文学館、藤沢市文書館などにまとまった資料群があり、各地の文学館、資料館、大学、また文学関連資料コレクターなどの個人にも多く収集され、さまざまな機会にそれらの所蔵情報が発信されてきた。多くの研究活動はもちろんのこと、これまで数次にわたり複数の出版社から刊行されてきた『芥川龍之介全集』では、それらの情報が活用されてきた経緯がある。しかしながら、本研究課題が取り組む「物」としての個々の情報を総合的、網羅的に掲載したデータベースはなく、最新版となる岩波書店版『芥川龍之介全集』でも現存が明らかとなっている資料の全てが掲載されていないという事実も研究者間で十分に共有されているとは言い難い状況にある。本研究課題は、このような実態を踏まえ、「直筆資料」の総合データベースの構築を早急に行うべきと判断した。

なお、研究代表者の庄司達也は、芥川龍之介関連直筆資料の分析を対象とした研究会に於ける活動を複数の文学館、資料館、古書肆などの協力の下で行ってきた。本研究課題では、そこで構築した研究ネットワークを十分に活用し、より広い視野からの協働を目指すことを可能とする基盤を既に有している。

2. 研究の目的

大正期に活躍した作家の芥川龍之介が残した原稿や草稿、書簡、書画などの「直筆資料」と呼ばれる資料類に焦点を絞り、それらの残存状況の調査と分析を行い、総合的なデータベースを構築し、公開することを目標として定め、合わせてその活用を検討することを目的とする。具体的には、資料の所蔵機関（個人の場合には「個人」と記載）に加え、原稿ならば使用された用紙、書簡ならば封筒、便箋、葉書など、また筆記具などについて、個々の資料体の「物」としての情報を網羅的に収集することで、芥川龍之介研究の基盤の再構築を試みる。

なお、これまでの行ってきた事前調査では、修復を施すべき関連資料などについても、その存在と現状を明らかにしてきた。それら資料の修復事業の実現に向けて、所蔵機関との協働を進め、積極的に取り組んでゆく。

3. 研究の方法

(1)芥川龍之介の直筆資料の主な所蔵機関である日本近代文学館、山梨県立文学館、藤沢市文書館が提供する情報を核とし、最新版『芥川龍之介全集』（岩波書店）の「解題」などで紹介されている所蔵情報を同一のフォーマットによって整理することを目指した。総合的なデータベースの基盤となるファイルの基本項目の入力はほぼ終えた。

(2)古書店の目録や展覧会の図録に記載された情報に加え、全国の各機関への聞き取り調査、アンケートなどにより情報を収集し、上記「1」のデータファイルを補完することを目指したが、コロナ災禍により当初に予定した通りに実施することは難しく、充分に行うことは叶わなかった。また、『芥川龍之介全集』刊行以後に現存が明らかとなった直筆資料も多くあり、追加調査の必要があるとの判断を持つに至っている。

(3)芥川龍之介の直筆資料についての情報を研究者間で広く共有し、今後あるべき研究の形について、問題意識を同じくする他の研究グループと合同で開催した勉強会などを通じて検討を重ね、研究成果の発信を行い、学界に向けて積極的に提言を行った。また、上記の合同勉強会では、研究代表者が指導するゼミ学生による「郡山市所蔵芥川龍之介直筆資料」に関する報告も行い、研究と教育との連携を実践した。

(4)研究代表者によるこれまでの調査によって、藤沢市文書館、こおりやま文学の森資料館が所蔵する芥川龍之介関連資料の中に、今後の積極的な公開のためには修復が必要な一群の資料の存在が確認されていたが、本研究課題では、それらの実態をより精緻に把握し、最も望まれる形での措置が講じられるよう、両館の協力の下、追加調査と検討を重ねた。

郡山市所蔵「久米正雄旧蔵映像資料」については、郡山市と研究代表者の庄司が所属する横浜市立大学との間で協定を結び、修復事業を実施した。修復事業終了の後には、協定に従い、報道記者会見などを通して、広く一般に研究成果の公開を行った。

(5)研究代表者の庄司や研究分担者の奥野久美子、研究協力者の小澤純は、これまでの研究活動を通じて、芥川龍之介関連資料を多く所蔵する文学館や資料館などの関係機関やそれらを管轄する自治体との連携、協力体制を構築してきた。本研究課題は、そのことを十分に活用しながら研究活動を進め、相応の成果を得たのみならず、協力関係をさらに強固なものとした。

4. 研究成果

(1)「芥川龍之介直筆資料所蔵状況データベース」の基盤部分の構築と、それをより精度を高めて

行うために全国の文学館、資料館などへの調査（アンケート、実地踏査を含む）を行う事を計画していたが、新型コロナウイルスの感染状況の悪化に伴い、当初予定からの抜本的な変更を余儀なくされた。そのため、データベース構築については、既存の情報（『芥川龍之介全集』（岩波書店）『芥川龍之介全作品事典』（勉誠出版）掲載の情報）を踏まえ、基盤となる部分の作業を学生アルバイトを雇用して行い、基本的な作業については、ほぼ終えることができた。

なお、本データベース完成後の活用方法についても、関係する文学館、資料館、或いは出版社などに助言を求めることを積極的におこなった。このことを解決すべき重要な課題として位置付け、助成期間中に継続的に取り組んだ。

(2)芥川龍之介関連の直筆資料についての情報を積極的に収集し、かつ関連資料の収集にも努めた結果、郡山市が所蔵する「芥川龍之介草稿」の分析を終え、2020年7月に他の2つの研究グループ（研究代表者：篠崎美生子「1910～30年代の文化メディアにおける日中相互表象の形成と展開」課題番号18K00297、研究代表者：松本博明「折口信夫旧蔵資料の分析・評価とその成果活用による同時代文学の資料学的研究」課題番号18K00342）と合同で開催した「3研究グループ合同公開勉強会」で本件の報告を行った。この報告は、研究代表者の庄司達也が指導するゼミに所属する学生が中心となって行ったもので、不明であった草稿類の来歴を明らかにしたのみではなく、『芥川龍之介全集』では2作品として別々に位置づけられている作品が元々は1本の作品であったことを明らかにした。また、この調査の過程で、田端文士村記念館が所蔵する来歴不明の「芥川龍之介直筆資料」の1葉のおおよその執筆年代を明らかにすることができた。これらの成果により、今回の手法は他の「芥川龍之介直筆資料」の分析を行う際にも有用で、応用の利くものであることが参加者より指摘された。

なお、この研究成果は、学生たちが主体的に取り組んだことにより、1つ研究活動上に於ける成果に留まらない、教育活動上での成果ということにもなった。

(3)上記「(2)」でも記載した「3研究グループ合同公開勉強会」を2021年3月にも開催した。この勉強会では、参加者と共に各研究グループがそれぞれ進めている研究課題に対する理解を深めたことで、それぞれの研究活動の進展に益するものとなった。

(4)2020年度、福島県郡山市と研究代表者の庄司達也が所属する横浜市立大学との間で、郡山市所蔵「久米正雄旧蔵映画フィルム」の修復事業を行うための「研究協定」を結んだ。これによって、2021年度に「修復可能性調査」、「修復作業及び本調査」等を段階的に行う事が可能となり、田山花袋の映像の初確認など、大きな成果を生んだ。この計画は、横浜で事業を展開する企業（株）ヨコシネディーアイエーの協力を得たことで実現したのだが、その意味では、産官学の協働による成果と位置づけて良い。

(5)本研究グループは、本研究課題に関わる資料の収集を積極的に行ってきたが、その範囲は「芥川龍之介直筆資料」以外にも、菊池寛、久米正雄など他の文学者らの「直筆資料」にも及んでいる。そのことによって多くの知見を得ることが叶い、本研究課題が目指す近代文学研究に於ける「直筆資料」研究の有効性が示されたと考えている。

具体例を1つあげる。本研究課題が菊池寛の「畑耕一宛書簡」を入手できたことにより、菊池寛もまた、芥川龍之介と同様に、大阪毎日新聞社、東京日日新聞社に対して自身の知人や友人を新聞連載小説の執筆者として積極的に勧誘、紹介していたことがわかった。大阪毎日新聞社と芥川龍之介、菊池寛の関係性をこれまで以上に詳細に把握することができたことになる。公開されている書簡類に限られている文学者の場合、関連する直筆資料類を積極的に収集することによって事実を明らかとすることが叶う好例であろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 136136
2. 論文標題 二字の伏せ字 戦時下での或る編集者の仕事	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学言語と文芸の会	6. 最初と最後の頁 89-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 55
2. 論文標題 芥川龍之介の大阪毎日新聞社 - 一九二四年一月「職事件」考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 湘南文学	6. 最初と最後の頁 83-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 3
2. 論文標題 手紙を読む楽しみ / 室生犀星書一通 すこしのことにも先達はあらまほしき事なり	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近代文学資料研究	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 68-8
2. 論文標題 「文学好きの家庭から」から見る文士芥川龍之介 新進青年作家の戦略としての「母は津籐の姪で」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 52-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 224
2. 論文標題 減点を振り返る	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文学・語学	6. 最初と最後の頁 47-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥野久美子	4. 巻 12
2. 論文標題 谷崎潤一郎：新村出あてはがき：翻刻と解題：「少将滋幹の母」執筆準備に関連して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪市立大学史紀要	6. 最初と最後の頁 105-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奥野久美子・宍倉忠臣ほか	4. 巻 12
2. 論文標題 島根県立第一中学校時代の日記(「井川日記」)：明治三十六年分：翻刻と注釈	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪市立大学史紀要	6. 最初と最後の頁 1-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小澤純	4. 巻 13-3
2. 論文標題 柳川隆之介「絹帽子」の翻刻と解題 芥川龍之介の出版期を未定稿から考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文藝と批評	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 691
2. 論文標題 芥川龍之介の書簡「文壇」という大海へ 青年作家の夢と野望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 三和新聞	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 10921092
2. 論文標題 田端に「芥川龍之介記念館(仮称)」建設へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 8-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庄司達也	4. 巻 47995
2. 論文標題 文学者と西洋音楽の縁 所蔵レコードなど調べ、蓄音機で追体験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本経済新聞	6. 最初と最後の頁 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件(うち招待講演 5件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介「伝」・「年譜」考 太宰治、ストラヴィンスキー、モーパッサンに関わる「記述」をめぐる課題
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会 ISAS (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 久米正雄の好奇心 ラジオ・ダンス・映画
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学に親しむイベント「文学講座」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小澤純
2. 発表標題 「フアース」を“LA MORT”に感染させる 葛巻義敏「一人」と坂口安吾「風博士」の論争的布置
3. 学会等名 坂口安吾研究会 第38回研究集会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 「大阪毎日新聞社と菊池寛」補説
3. 学会等名 国文学言語と文芸の会 3月例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 久米正雄と大正期の文学
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 若き久米正雄と第四次『新思潮』 雑誌『新思潮』に集った青年たちの夢
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学に親しむイベント「文学講座」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庄司達也
2. 発表標題 芥川龍之介への「友人甲斐」 久米正雄「牡丹縁」の舞台裏
3. 学会等名 こおりやま文学の森資料館 文学に親しむイベント「文学講座」(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 彭春陽、仁平道明編 庄司達也、他著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 国立台湾大学	5. 総ページ数 368
3. 書名 日本文学研究叢書35 芥川龍之介研究 台湾から世界へ	

1. 著者名 庄司達也、浅子逸男、宮崎真素美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 63
3. 書名 青い馬 復刻版 別冊	

1. 著者名 日本近代文学館編 庄司達也、他著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 秀明大学出版会	5. 総ページ数 135
3. 書名 教科書と近代文学 「羅生門」「山月記」「舞姫」「こころ」の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	奥野 久美子 (Okuno Kumiko) (50378494)	大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授 (24402)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	小澤 潤 (Ozawa Jun)		
研究 協力者	乾 英治郎 (Inui Eijiro)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------